

汚染水対策スケジュール (1/2)

資料 1-1

分野名	施設	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月以降	備考		
				12	19	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20			27	
●原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減(2022~2024年度)	建屋内滞留水	【1~4号機 滞留水移送装置】 (実績) ・1~4号機滞留水移送装置運転 (予定) ・1~4号機滞留水移送装置運転	現場作業	1~4号機滞留水移送装置設置 運転																(継続運転)	3号機 原子炉建屋滞留水水位低下(T.P.-2800目) 実施(2022年6月1日~) 目標到達【2023年3月30日時点水位 約T.P.-2800】 ※監視パラメータ異常なし 1号機 原子炉建屋滞留水水位低下(T.P.-2200目) 実施(2023年2月28日~) 目標到達【2023年3月30日時点水位 約T.P.-2200】 ※監視パラメータ異常なし
		【α核種除去設備検討】	設計・検討	詳細設計・工事																(2023年度 工事了り予定)	
		【1~4号機 T/B床面スラッジ等の回収方法検討】	設計・検討	設計検討																(2024年度 設計完了予定)	
		【滞留水一時貯留タンク設計】	設計・検討	詳細設計・工事																(2024年度 工事了り予定)	
		【プロセス主建屋・高温焼却建屋ゼオライト土壌の検討】	設計・検討	詳細設計・工事																(2024年内 工事了り予定)	実規模モックアップ(2022年10月~) 実施計画変更(2023年3月申請予定)
●汚染水発生量を100m3/日以下に抑制(2025年内)	浄化設備	【既設多核種除去設備】 【高性能多核種除去設備】 【増設多核種除去設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現場作業	処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)																(継続運転)	処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止 増設多核種除去設備 前処理設備改修に係る実施計画変更申請(2022年4月28日認可) 高性能多核種除去設備 除去性能確認に係る実施計画変更申請(2022年9月28日認可) 使用前検査 : 2023年2月28日終了証発行 多核種除去設備 連絡配管設置に係る実施計画変更申請(2022年4月28日認可) 使用前検査 : 2022年12月9日終了証発行 2023年4月インサービス予定
		【サブドレン浄化設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現場作業	処理運転																(継続運転)	サブドレン汲み上げ、運用開始(2015年9月3日~) 排水開始(2015年9月14日~) 5/6号機サブドレンの復旧・汲み上げ・運用開始(2022年3月~)
		【地下水バイパス設備】 (実績) ・運転 (予定) ・運転	現場作業	運転																(継続運転)	
		【セシウム吸着装置】 【第二セシウム吸着装置】 【第三セシウム吸着装置】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現場作業	処理運転																(継続運転)	2021年1月29日 吸着槽の第二セシウム吸着装置及び第三セシウム吸着装置での再利用の実施計画変更認可(新規規格第2101291号) 使用前検査: 2022年7月21日(第二セシウム吸着装置1号) 2022年7月28日(第二セシウム吸着装置2号) 2022年8月25日(第二セシウム吸着装置3号) 使用前検査予定: 2023年4月11日(第三セシウム吸着装置1号) 2023年4月18日(第三セシウム吸着装置2号) 2023年5月23日(第三セシウム吸着装置3号) 試験中(第三セシウム吸着装置4号~6号) 第三セシウム吸着装置の運転計画再見直しにより実施時期再調整中
		(実績・予定) ・未凍結箇所補助工事は2018年9月に完了 ・維持管理運転2019年2月21日全構築完了	現場作業	維持管理運転(北側、南側の一部 2017/5/22~、海側の一部 2017/11/13~、海側全域・山側の一部 2018/3/14~、山側全域2019/2/21完了)																(継続運転)	6BL+H1戻り配管(昨年度凍えい箇所近傍) カップリングジョイント部からブライン撤去(11月28日) 当該区間のブラインを抜き取り、カップリングジョイント交換及びブライン補給を実施(2月10日)
フェーシング(陸側海水壁内エリア)	現場作業	【凍土壁内フェーシング(全6万m ²)】 ・3号機建屋西側	3号機建屋西側																(2024年2月完了予定)	3号機建屋西側: 2024年2月完了予定	
1~2号Rw/B壁上雨水排水対策工事	現場作業	(実績・予定) ・1号Rw/B壁上雨水の浄化材への排水ルート構築	(2023年3月24日 工事了り予定)																(2023年1月10日 善手)	2023年1月10日 善手	
1~4号機建屋周辺トレンチ調査	現場作業	(実績・予定) ・12箇所の調査実施(2023)																	(2023年12月調査完了予定)		
サブドレンNo40周辺PCB含有絶縁油拡散抑制対策	現場作業	(実績・予定) ・漏失板設置 ・薬液注入																	(2023年7月 工事了り予定)		
5号機建屋間ギャップ 漏れ止水対策	現場作業	(実績・予定) ・建屋間ギャップ漏れ止水: 4箇所																	(2024年1月完了予定(天候、試験結果により工程は見直す可能性がある))	準備作業: 善手2023年2月末 掘削開始: 2023年5月予定(掘削工程) 2024年1月完了予定(天候、試験結果により工程は見直す可能性がある)	

汚染水対策スケジュール (2/2)

分野名	括り	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	2月				3月				4月			5月			6月			7月			8月			9月以降	備考		
				12	19	26	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8					
汚染水対策分野	●タンク関連	H4エリアNo. 5タンクからの漏えい対策	(実績・予定) ・汚染の拡散状況把握	現場作業	モニタリング																								(継続実施)	
		タンク解体	(予定) ・Eエリアフランジタンク解体工事 : 49基解体予定 (2023年度中) ・Eエリアフランジタンク (D1) 内の残水回収 (スラッジ含む) (実績) 解体基数 47基/49基	現場作業	Eエリアフランジタンク解体工事																								(2023年2月D12タンク解体完了)* ※: 残水回収中のD1タンクおよびその残水回収作業で使用しているD2タンク(計2基)を除く	2018年9月10日 Eエリアにおける中低濃度タンクの撤去等について (実施計画変更認可) D12タンク解体完了: 2023年2月
				現場作業	Eエリアフランジタンク (D1・D2) 内の残水回収																								(継続実施)	D2タンク内の残水回収: 2022年6月完了
	●自然災害対策	津波対策	○日本海溝津波対策 ・日本海溝津波対策防潮堤設置 (実績・予定) 斜面補強構築工事 本体構築工事 ○サブドレン集水設備高台機能移転 (実績・予定) ろ過水タンク西側整備工事実施 地盤改良 (実施中)	現場作業	斜面補強・本体構築工事																								(2024年3月 工事完了予定)	2024年3月完了予定 現場着手: 2021年6月21日開始 斜面補強部: 2021年9月14日作業開始 防潮堤本体部: 2022年2月15日作業開始
				現場作業	ろ過水タンク西側整備 (ろ過水配管リルート工事) 地盤改良工事 (地盤改良) 実施中																								(2024年度初旬 工事完了予定)	
		豪雨対策	○豪雨対策 ・D排水路新設 (9月30日完成) ・モニタリング関連設備構築中	現場作業	モニタリング関連設備構築工事																								2023年3月23日 モニタリング設備 2基竣工完了予定	2022年11月にモニタリング設備 (連続監視) 運用開始 2022年12月にゲート遠隔操作開始予定

水処理設備の運転状況、運転計画
(2023年3月17日～2023年4月20日)

2023年4月7日
東京電力ホールディングス株式会社

既設多核種除去設備

	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)	29(水)	30(木)	31(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)
A	点検停止																																		
B	点検停止																																		
C	点検停止																											←		→		点検停止			

増設多核種除去設備

	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)	29(水)	30(木)	31(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)									
A	←		→		計画停止			←							→		点検停止		←			→		計画停止			←		→		点検停止		←		→		計画停止		←		→		点検停止	
B	点検停止	計画停止	←			→			計画停止			←			→		点検停止		←			→		計画停止			←		→		点検停止													
C	点検停止	←		→		計画停止		点検停止	計画停止	←			→		計画停止			←		→		計画停止			←		→		点検停止		←		→		計画停止									

高性能多核種除去設備

	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)	29(水)	30(木)	31(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)
A	計画停止																																		

セシウム吸着装置(KURION), 第二セシウム吸着装置(SARRY), 第三セシウム吸着装置(SARRY2)

	17(金)	18(土)	19(日)	20(月)	21(火)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)	29(水)	30(木)	31(金)	1(土)	2(日)	3(月)	4(火)	5(水)	6(木)	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)										
SARRY	←				→			点検停止			←			→		計画停止			←			→		点検停止			←			→		計画停止			←		→		計画停止						
SARRY2	←				→			点検停止	←										→		計画停止										←		→		点検停止										計画停止
KURION	計画停止																																												

※ 現場状況を踏まえて運転するため、計画を変更する場合があります。

福島第一原子力発電所の滞留水の水位について

2023年4月7日

(2023年3月17日～2023年4月6日)

東京電力ホールディングス株式会社

	原子炉建屋水位					タービン建屋水位				廃棄物処理建屋水位				集中廃棄物処理施設水位		
	1号機	2号機	3号機		4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	プロセス主建屋	高温焼却炉建屋	サイトバンカ建屋
			HPCI室	トーラス室												
3月17日	-2231	-2889	-2838	-2850	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-245	-50	1332
3月18日	-2245	-2910	-2843	-2850	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-243	24	1333
3月19日	-2253	-2887	-2836	-2853	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-241	-32	1333
3月20日	-2242	-2907	-2848	-2853	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-239	-142	1333
3月21日	-2243	-2879	-2847	-2850	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-239	15	1332
3月22日	-2248	-2901	-2845	-2855	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-237	224	1332
3月23日	-2238	-2879	-2843	-2853	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-240	209	1332
3月24日	-2248	-2900	-2840	-2855	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-239	70	1333
3月25日	-2221	-2907	-2840	-2804	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-238	22	1334
3月26日	-2231	-2907	-2840	-2804	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-236	-149	1334
3月27日	-2246	-2894	-2836	-2806	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-234	-295	1335
3月28日	-2254	-2884	-2834	-2806	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-232	-414	1334
3月29日	-2251	-2908	-2834	-2806	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-227	-538	1334
3月30日	-2251	-2887	-2836	-2794	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-223	-359	1334
3月31日	-2232	-2877	-2836	-2792	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-222	-120	1334
4月1日	-2230	-2882	-2834	-2796	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-220	10	1334
4月2日	-2234	-2896	-2834	-2797	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-219	-62	1335
4月3日	-2253	-2894	-2834	-2803	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-217	-144	1335
4月4日	-2252	-2884	-2834	-2806	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-215	-266	1335
4月5日	-2251	-2907	-2833	-2806	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-211	-402	1335
4月6日	-2251	-2889	-2833	-2806	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-210	-248	1334
最下階床面高さ	-2666	-4796	-4796	-4796	443	-1752	-1737	-1739	-36	-1736	-1736	-1736	-2736	-2236	2358	

備考欄

- ※ T.P.表記（単位:mm）
 ※ 5時時点の水位
 ※ 1号機タービン建屋の滞留水処理完了（2017年3月）
 ※ 1号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了（2019年3月）
 ※ 3号機原子炉建屋水位は、南東三角コーナー水位が停滞している事から水位変動を監視するため一時的に記載（2019年7月5日～）
 ※ 4号機原子炉建屋の滞留水処理完了（2020年12月）
 ※ 2～4号機タービン建屋の滞留水処理完了（2020年12月）
 ※ 2～4号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了（2020年12月）
 ※ サイトバンカ建屋は過去に滞留水を誤って移送した経緯があり、排水したものの現状も低レベルの汚染が残っていることから、水位を監視している。
 《当該建屋内の水は1～4号機建屋及び集中廃棄物処理施設（プロセス主建屋、高温焼却炉建屋）内の建屋滞留水と切り離されており、放射能濃度も低いことから、建屋滞留水ではない。》
 なお、これまでは水位計の測定下限値(約T.P.2700mm)以下まで水位低下処置し監視を行ってきたが、さらに建屋サンプの水位変動を確認するため、2022年4月19日より水位計を移設し連続監視を行う事とした。

各エリア別タンク一覧

1~4号機用汚染水貯蔵タンク

タンク基礎、水位、貯蔵量、実容量集約日 2023年3月23日

Table with columns: 罐エリア, 基数, 1基あたり容量(公称) [m3], タンク型, 貯蔵水, H水位 (mm), H容量/基-実容量/基 (m3), 0%以下貯蔵量(m3), 0%以上貯蔵量(m3), 実容量 (m3), 水位管理 (水位(%), スロッシング考慮(%), HANN(%), HHANN(%)), 放射能濃度(Bq/cc) (Cs-134, Cs-137, Co-60, Mn-54, Sb-125, Ru-106, Sr-90), 測定時期, 概略使用開始時期. Rows include tanks B, B南, C, D, E, G1, G1南, G3東, G3西, G3北, G4北, G4南, G6, G7, H1, H1東, H2, H3, H4北, H4南, H5, H6(I), H6(II), H8北, H8南, J1, J2, J3, J4, J5, J6, J7, J8, J9, K1北, K1南, K2, K3, K4, 多核種除去設備, 高性能多核種除去設備, 増設多核種除去設備, D, H2.

赤字はアウトオブサービス済の基数

※実容量には、タンク底部から水位計の水量(DS分)を含まない。

下線部は今回の変更箇所

※1 濃縮塩水/Sr処理水等を貯留した実績あり(G3西及びJ1の一部)

※2 Sr処理水等を貯蔵した実績のあるタンクを再利用したものを含む 再利用した基数 G3西:30、G3北:6、H8南:8、J1:8、K1南:10、K2:26

※3 多核種除去設備処理済水(ALPS処理水等)の放射能濃度について、当社「処理水ポータルサイト」に掲載のデータ(3ヶ月毎にデータ更新) 処理水ポータルサイトのURLは以下のとおりです。4ページ中段にある「貯蔵タンクエリア毎の放射能濃度を詳しくみる」をクリックすると、分析結果が表示されます。 https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/

※4 多核種除去設備、高性能多核種除去設備、増設多核種除去設備のサンプルタンクは貯留用タンクではなく水の入れ替わりがあることから、分析対象外とする。

汚染水等構内溜まり水の状況 (2023.3.23時点)

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
1-2	2号機R/B	2号機R/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【上屋】 Cs-134: 200~340 Cs-137: 650~1100 全β: 920~1900 Sr-90: 10~20 H-3: ND(<100) (2015.1.16)	
2	5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	・5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	6号機北側	約1,550 (2022.12.8時点) 約1,000 (2023.3.16時点)	Cs-134: 2.9E0 Cs-137: 9.7E1 (2022.7.12)	5・6号建屋滞留水・RO濃縮水を貯留
3	5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	・5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約7,150 (2022.12.8時点) 約8,200 (2023.3.16時点)	Cs-134: 7.7E0 Cs-137: 4.3E1 (2016.10.3)	5・6号建屋滞留水・RO濃縮水を貯留
4-2	吸着塔一時保管施設	水処理二次廃棄物(SARRY、KURION、ALPS処理カラム、モバイル式処理装置)	吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	1程度(1基あたり)	Cs-137: 2.0E3~1.6E7 Sr-90: 5.3E3~4.3E7 (2017.2~2017.3)	
7	濃縮水タンク(蒸発濃縮装置濃縮水)	蒸発濃縮装置濃縮水用ノッチタンク(スラリー/濃縮水)	タンクエリア(Cエリア)	約65※1 (2019.2.1時点)	【蒸発濃縮装置濃縮水】 Cs-134: 1.7E4 Cs-137: 2.5E4 全β: 4.7E8 (2011.12.20)	蒸発濃縮装置濃縮水を貯留 ※1: 全5タンクの水量を測定して算出
9	5, 6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット	・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	6号機スクリーン近傍	約850	Cs-134: ND Cs-137: 1.8E0 (2022.2.1)	
		・5号機逆洗弁ピット	5号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134: 3.0E0 Cs-137: 1.9E1 (2016.10.3)	
		・6号機逆洗弁ピット	6号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134: 1.5E0 Cs-137: 1.1E1 (2016.10.3)	
10	1~4号機T/B屋根	・1号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs-134: 1.5E1 Cs-137: 6.4E2 (2022.12.8) 全β: 4.4E1 (2020.7.29)	
		・2号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2号機T/B上屋】 Cs-134: ND Cs-137: 2.4E1 (2022.12.8) 全β: 8.9E0 (2020.7.29)	
15	地下貯水槽	地下貯水槽No. 1	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.3E6 (2018.9.12) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 1.1E4 (2023.2.7) H-3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
16	地下貯水槽	地下貯水槽No. 2	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.1E6 (2018.9.12) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 6.4E4 (2023.2.8) H-3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
17	地下貯水槽	地下貯水槽No. 3	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.2E6 (2018.9.11) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 1.6E4 (2023.2.10) H-3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
18	地下貯水槽	地下貯水槽No. 4	タンクエリア	—	【タンク域内雨水貯水実績あり】 全β: 2.8E4 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)

汚染水等構内溜まり水の状況 (2023.3.23時点)

リスク縮点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考	
20	地下貯水槽	地下貯水槽No. 6	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 7.8E6 (2018.9.11) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 4.5E1 (2019.9.5) H-3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)	
21	地下貯水槽	地下貯水槽No. 7	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 1.5E2 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)	
22	1-4号建屋接続トレンチ	・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト(2号機廃棄物系共通配管ダクト) ・1号機薬品タンク連絡ダクト 等	1~4号機周辺	約1~170 (2022.1)	Cs-134: ND~2.5E2 Cs-137: 1.4E2~8.3E3 全β: 1.4E2~7.7E3 H-3: ND~7.6E2 (2022.1)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1)「2021年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照	
23	2~4号機DG連絡ダクト	・2~4号機DG連絡ダクト	2~4号機山側	約1,600 (2022.1)	Cs-134: ND Cs-137: 9.3E1 全β: 1.1E2 H-3: ND (2022.1.13)		
24-1	1号機海水配管トレンチ	・1号機海水配管トレンチ	1号機タービン建屋海側	約410 (2022.1)	Cs-134: ND Cs-137: 4.1E1 全β: 4.5E1 (2022.1.13)		
26	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	・3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機山側	約830 (2022.1)	Cs-134: 4.8E1 Cs-137: 4.0E2 全β: 4.4E2 H-3: ND (2017.10)		
28	1-4号建屋未接続トレンチ	・2号機変圧器防災用トレンチ ・消火配管トレンチ(3号機東側) ・1号機主変圧器ケーブルダクト ・1号機廃液サーージタンク連絡ダクト ・1号機オフガス配管ダクト 等	1~4号機周辺	約6~830 (2022.1)	Cs-134: ND~1.0E1 Cs-137: 1.1E1~2.5E2 全β: 1.9E1~2.5E2 H-3: ND (2022.1)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1)「2021年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照	
29	1~4号機サブドレンビット No.15,16(未復旧ビット)	・サブドレンビットNo.15,16	1~4号機周辺「未復旧」	約20	【No.16】 Cs-134: 1.2E3 Cs-137: 5.3E4 全β: 6.4E4 H-3: ND (2023.1.4)		
30	その他1~4号機サブドレン(ディーブウェル含む)(未復旧ビット)	・1号機~4号機サブドレン	1~4号機周辺「未復旧」	約15/ビット	【No.47,48】 Cs-134: ND~3.9E1 Cs-137: 4.8E1~9.6E1 全β: 7.9E1~2.8E2 H-3: ND (2014.11.10)		
32	1号機放水路 (出口を閉塞済)	・1号機放水路 (出口を閉塞済)	1~4号タービン建屋海側	約5,220 (2022.1)	【放水路上流側立坑】 Cs-134: 1.5E2 Cs-137: 5.8E3 全β: 7.2E3 H-3: 1.4E2 (2023.2.13)	1.6E2 5.9E3 7.4E3 1.3E2 (2023.3.20)	
33	2号機放水路 (出口を閉塞済)	・2号機放水路 (出口を閉塞済)	2~4号機タービン建屋海側	約5,350 (2022.1)	【放水路上流側立坑】 Cs-134: 2.0E1 Cs-137: 9.1E2 全β: 1.3E3 H-3: ND (2023.2.13)	1.8E1 9.8E2 1.3E3 ND (2023.3.20)	
34	3号機放水路 (出口を閉塞済)	・3号機放水路 (出口を閉塞済)	3~4号機タービン建屋海側	約3,360 (2022.1)	Cs-134: 1.7E1 Cs-137: 6.0E2 全β: 7.6E2 H-3: 1.3E2 (2023.1.11)	1.3E1 6.7E2 8.1E2 1.2E2 (2023.2.8)	
35	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4,500	Cs-134: 7.2E0 Cs-137: 2.3E1 I-131: ND Co-60: ND 全γ放射能: 3.1E1 全β放射能: - (2014.5.23)		
36	5号CSTタンク (溶接タンク)	・5号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1170 (2022.9.14) 約1060 (2023.3.15)	Cs-134: ND Cs-137: ND Co-60: 2.9E1 (2023.1.10)	ND ND 3.6E1 (2023.3.13)	プラント保有水を貯留
37	6号CSTタンク (溶接タンク)	・6号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1630 (2022.9.14) 約1730 (2023.3.15)	Cs-134: ND Cs-137: ND Co-60: ND (2023.1.17)	ND ND ND (2023.2.17)	プラント保有水を貯留
38	5/6号他 トレンチ	・5号機海水配管トレンチ ・5/6号機ストームドレン配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト 等	5~6号機周辺	約1~1,870 (2022.1)	Cs-134: ND~1.7E0 Cs-137: ND~5.1E1 (2022.1)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1)「2021年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照	

汚染水等構内溜まり水の状況 (2023.3.23時点)

リスク縮点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考	
40	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ピット	Cs-134: 1.0E+1 Cs-137: 1.4E+1 Co-60: <6.0E-01 全γ放射能: 2.4E+1 (2012.1.18)		
42	集中ラド周リサブドレン	・集中ラド周リサブドレン	主プロセス建屋等 各建屋周辺	約15/ピット	Cs-134: ND Cs-137: ND~3.6E1 (2023.2.15)	ND ND~3.2E1 (2023.3.22)	
44	純水タンクNo.1	・純水タンク	屋外(建屋エリア)	約850	Cs-134: 2.1 Cs-137: 7.2 全β: 12.2 H-3: ND (2015.5.29)	震災後、坂下ダム補給水を貯留	
45	5/6号機建屋滞留水	・5/6号機建屋滞留水	5~6号機	約6,400 (2022.12.8時点) 約9,900 (2023.3.16時点)	【5号機】 Cs-134: ND Cs-137: 1.1E0 全β: ND H-3: ND (2023.1.18)	ND ND ND ND (2023.2.16)	
					【6号機】 Cs-134: ND Cs-137: 1.6E0 全β: ND H-3: ND (2023.1.19)	ND 1.4E0 ND ND (2023.2.17)	
46	排気筒ドレンサンピット	・1/2号排気筒ドレンサンピット	1~4号機周辺	約0.3 [※] <small>※適宜溜まり水の移送を実施</small>	Cs-134: 3.9E4 Cs-137: 1.8E6 全β: 1.8E6 (2022.12.21)	1.4E5 5.9E6 6.0E6 (2023.1.27)	2019.10.12以降、水位低下傾向が確認された。 (2019.11.27) 2022.3.29の調査で流入箇所を特定したことから、今後流入抑制対策を実施していく。 (2022.4.27)
		・3/4号排気筒ドレンサンピット	1~4号機周辺	約2	Cs-134: 1.5E1 Cs-137: 5.7E2 全β: 6.5E3 (2022.3.31)		
		・5/6号排気筒ドレンサンピット	5/6号機周辺	約7.6 (2020.3.12)	Cs-134: ND Cs-137: 9.5E0 全β: ND (2022.3.30)		
		・集中RW排気筒ドレンサンピット	1~4号機周辺	約10	Cs-134: 1.3E1 Cs-137: 3.0E2 全β: 2.7E2 (2022.2.16)	ND 2.9E2 3.5E2 (2023.2.2)	
47	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫 (6~8号棟)	約200	Cs-134: ND Cs-137: 5.3E+1 全β: 4.8E+1 (2017.11.10)		

建屋内における残水等の状況について

Table with columns: No., 号機, 建屋, 対象エリア, 区分, 区分の判断日※1, 運用目標値/基準値(mm), 測定頻度, 今日 (確認日, 水位, 1日前との水位差(mm)), 1日前 (確認日, 水位, 2日前との水位差(mm)), 2日前 (確認日, 水位, 3日前との水位差(mm)), 最終排水実績, 排水計画, 床面(mm), 水位計の有無, 水位調整不可能予定時期, 備考. Rows include various equipment and areas like 電気マンホール, 主油タンク室, 復水脱塩装置, ハウスボイラ室, etc.

※1: 現状の滞留水位より床面が低く、将来的な水位低下によって孤立すると想定されるエリアについては、運転上の制限(建屋滞留水<サブドレン水位)を満足する時期で調査を行い、区分けするように計画する。
※2: 2018/3/8,2018/4/24 面談資料参照。
※3: 1号機タービン建屋は、現在、床ドレンサンプ内で水位管理を行っているため、T.P.443として管理(2018/4/6面談資料参照)
※4: 連通のある復水器エリアは、連通高さ(T.P.-1527mm)以下にある床ドレンサンプで水位を制御しているため、連通高さを超えてから水位を記載する。
※5: 床面露出。中間地下階のため、再冠水の可能性は低い。
※6: 床面露出。床面(T.P.-1737mm)以下にあるストームドレンサンプで水位を制御しているため、床面高さを超えてから水位を記載する。

2023/3/9 5:00 時点の各建屋水位

Summary table showing water levels at 5:00 on 2023/3/9 for buildings 1, 2, 3, and 4. Columns include 建屋, R/B, Rw/B, T/B, and 滞留水の水位.

※6: 1号機T/Bの最下階の床レベルはT.P.443mm

各建屋地下エリアの滞留水貯留状況

最終更新：2020/2/8
東京電力ホールディングス株式会社

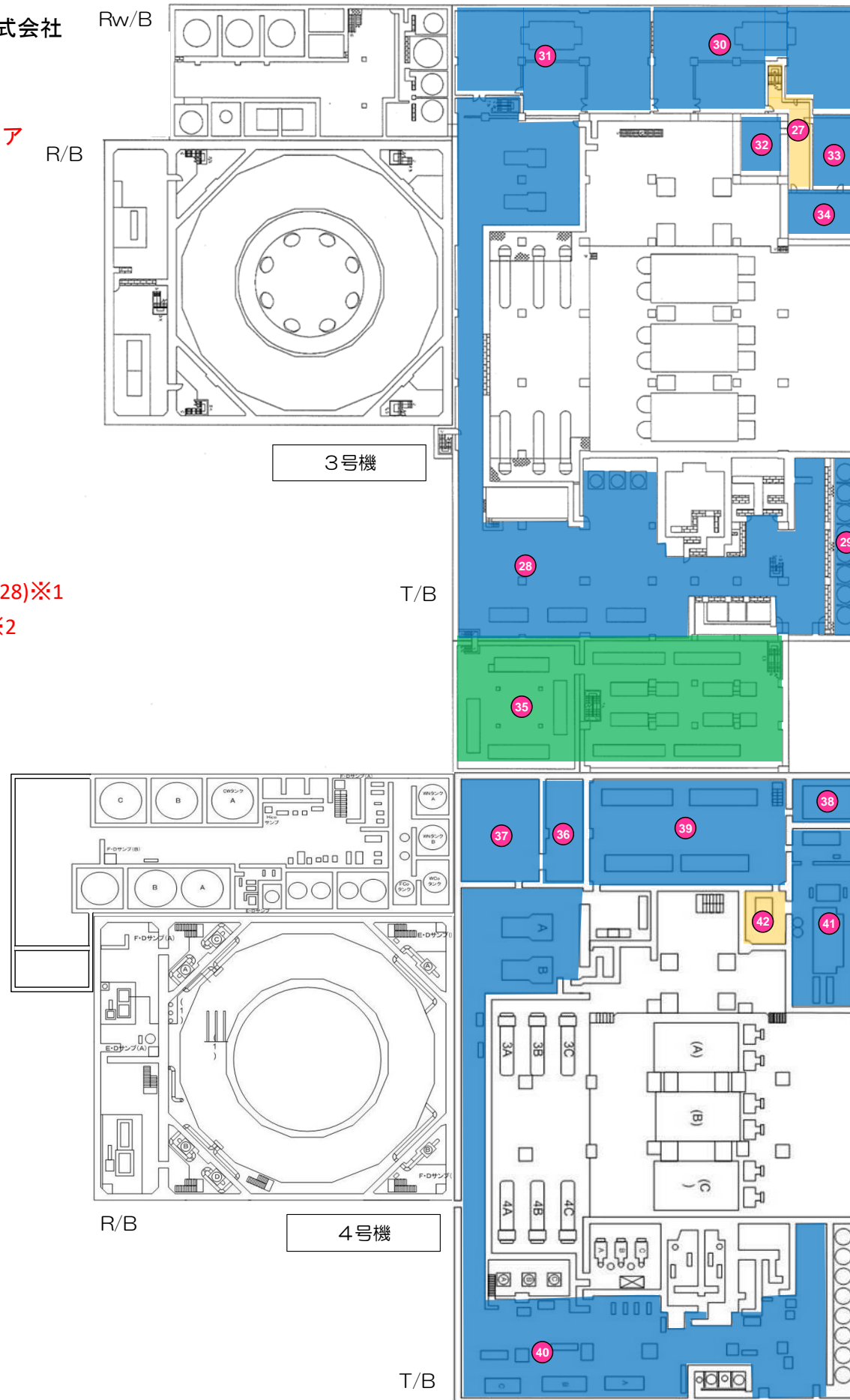
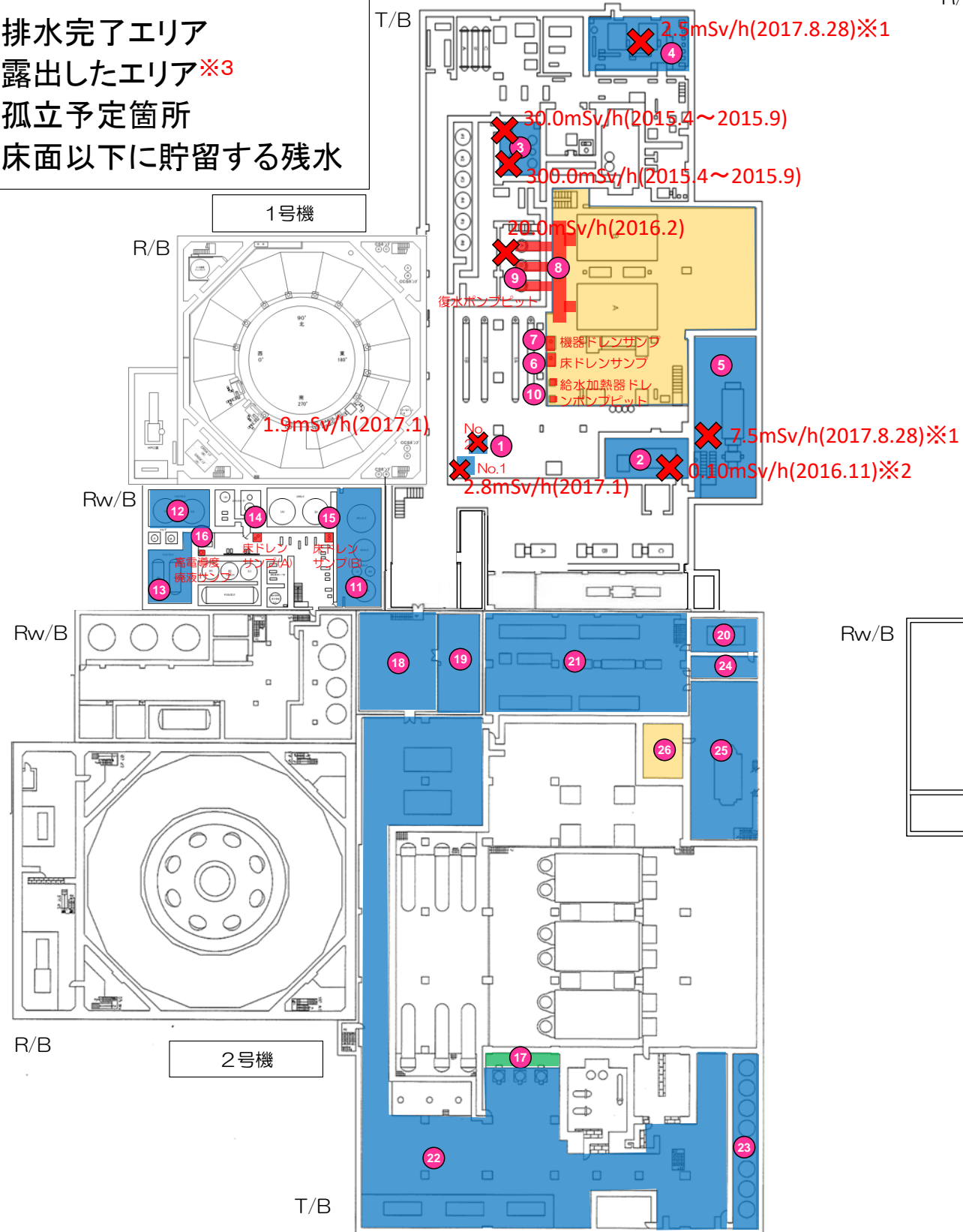
水位安定エリア等については線量測定が実施出来た場合、測定結果を記載している。

※1: 1階床面より3m程度挿入した箇所にて測定

※2: 作業エリアである1階床面で測定

※3: 孤立すると予想したエリアだが連通が確認されたため、建屋に滞留する滞留水のままと判断したエリア

- : 排水完了エリア
- : 露出したエリア※3
- : 孤立予定箇所
- : 床面以下に滞留する残水



福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画 記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 12}	管理方法		主要 核種
							実施内容 ^{※9}	頻度	
Ⅲ 第1編 39条 第2編 87条の2	瓦礫類	<ul style="list-style-type: none"> 地震、津波、水素爆発により飛散した瓦礫 フォールアウトにより汚染した設備・資機材で廃棄する物（建屋、制御盤、廃車両等） 設備の点検・工事により発生する交換品等（ポンプ、バルブ、配管、フランジタンク等） 設備運転に伴い発生する消耗品等（空調フィルタ等） 工事等のため構内に持ち込んだ消耗品（梱包材、型枠、セメント用空袋等） 回収した土壌 	屋外	・屋外集積（～0.1mSv/h）	234,600 m ³ [+400 m ³]	266,300 m ³ (299,000 m ³)	・人が容易に立ち入れないよう区画	—	Cs-137 Cs-134 等 ^{※7}
				・シート養生（～1mSv/h）	46,300 m ³ [-1,500 m ³]	50,700 m ³ (77,400 m ³)	・巡視を行い、容器の転倒、落下や養生シートに破れがないこと、その他異常が無いことを確認	週1回	
				・覆土式一時保管施設、容器収納（1mSv/h～30mSv/h）	17,000 m ³ [0 m ³]	17,900 m ³ (18,500 m ³)	・空間線量率を測定し表示	週1回	
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納	29,300 m ³ [+400 m ³]	39,600 m ³ (64,700 m ³)	・空気中の放射性物質濃度を測定	6ヶ月に1回 ^{※2}	
				瓦礫類の合計	327,300 m ³ [-700 m ³]	374,400 m ³ (459,500 m ³)	・槽内の溜まり水の有無を確認（覆土式一時保管施設）	週1回	
	使用済保護衣等	<ul style="list-style-type: none"> タイベック 下着類 ゴム手袋 その他保護衣、保護具 	屋外	・容器収納	14,800 m ³ [+800 m ³]	52,500 m ³ (58,700 m ³)	・煙、水蒸気、濁り水（黒・茶色）、空気の揺らぎが発生していないこと（屋外集積の伐採木）	週1回 ^{※3}	
			建屋	・袋詰め					
	伐採木	<ul style="list-style-type: none"> 枝葉根 幹根 	屋外	・伐採木一時保管槽	37,300 m ³ [0 m ³]	41,600 m ³	・伐採木一時保管槽における温度監視	週1回 ^{※3}	
				・屋外集積	2,300 m ³ [0 m ³]	6,000 m ³	・保管量を確認し、保管容量が確保されていることを確認	月1回	
			伐採木の合計		118,900 m ³ [-1,900 m ³]	175,600 m ³ (175,600 m ³)	—	—	
—			—	—	—	—			
Ⅲ 第1編 40条 第2編 87条の3	水処理二次廃棄物（水処理により放射性物質を濃縮した廃棄物）	凝集沈殿物	廃スラッジ [※] 貯蔵施設	・造粒固化体貯槽【除染装置】	468 m ³ [+1 m ³]	700 m ³	・免震重要棟にて液位を監視し、漏えいの有無を監視	常時	Cs-137 Cs-134 Sr-90等
			使用済セシウム吸着塔一時保管施設	・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約13mSv/h）	4,143 本 [+15 本]	4,192 本	・人が容易に立ち入れないよう区画	—	
		・HIC【多核種除去設備、増設多核種除去設備】（最大約23mSv/h）				・空間線量率を測定し表示	—		
		・吸着塔【第二セシウム吸着装置、第三セシウム吸着装置、高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備、サブドレン他浄化装置】（最大約1.2mSv/h）		400 本 [+1 本]	584 本	・巡視を行い、コンクリート製ボックスカルバート等に異常が無いことを確認	—		
		・処理カラム【多核種除去設備】（最大約0.2mSv/h）							
		・吸着塔【セシウム吸着装置、モバイル式処理装置、モバイル型Sr除去装置、第二モバイル型Sr除去装置、サブドレン他浄化装置、高性能多核種除去設備検証試験装置】（最大約250mSv/h）		980 本 [0 本]	1,532 本	・貯蔵量を確認し、貯蔵可能容量が確保されていることを確認	週1回		
		フィルタ	容器収納【モバイル型Sr除去装置】（最大約0.5mSv/h）			瓦礫類に含む	瓦礫類と同様		
			屋外	・容器収納【高性能多核種除去設備、RO濃縮水処理設備】（最大約0.5mSv/h）					
			固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【サブドレン他浄化装置】 ・容器収納【雨水処理設備等】（1mSv/h未満）					
		RO装置のフィルタ類	屋外	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h）		瓦礫類に含む	瓦礫類と同様		
樹脂	固体廃棄物貯蔵庫	・容器収納【SFP塩分除去装置】（最大十数mSv/h） ・容器収納【雨水処理設備等】（最大2mSv/h）		瓦礫類に含む	瓦礫類と同様				

福島第一原子力発電所における固体廃棄物について

実施計画 記載箇所	大分類	小分類	保管場所	保管形態	保管量 ^{※1, 11, 12}	保管容量 ^{※1, 11, 12}	管理方法		主要 核種	
							実施内容 ^{※9}	頻度		
Ⅲ 第1編 38条 第2編 87条	放射性固 体廃棄物 等	・震災前に発生した放射性固体廃棄物	固体廃棄 物貯蔵庫	・ドラム缶収納	ドラム缶 175,661 本	ドラム缶 (約318,500 本相当)	・巡視による保管状況の確認及び保管量 の確認	月1回	Co-60 等	
				・その他	ドラム缶 10,155 本					
		・震災後に発生した放射性固体廃棄物 (焼却灰等)	・ドラム缶収納、ボックスコンテナ収納	4,411 本 [+213 本]						
		・使用済制御棒等	サイトバ ンカ	・水中保管	12,125 本 193 m ³ ^{※4}	—		・事故前の保管量の推定値により確認		3ヶ月に1 回
		・イオン交換樹脂、造粒固化体	タンク等	・タンク等に貯蔵	3,546 m ³ ^{※5}	—		・貯蔵量の確認 ^{※8}		3ヶ月に1 回
		・使用済制御棒等	使用済燃 料プール	・水中貯蔵	11,422 本 ^{※6}	—	・使用済燃料共用プールの巡視	月1回		
							・使用済燃料共用プールの貯蔵量の確認	3ヶ月に1 回		
— ^{※10}	瓦礫等	・回収した瓦礫等	屋外	・屋外集積、シート養生、容器収納、雨水等侵入防止養生	—	75,000 m ³ [-3,100 m ³]	・人が容易に立ち入れないよう区画 ・空間線量率を測定し表示	—	Cs-134 Cs-137 等	
			建屋	・屋内集積、シート養生、容器収納、雨水等侵入防止養生	—	100 m ³ [微減 m ³]				
	水処理二 次廃棄物	・樹脂、ゼオライト、RO膜等	-	・容器収納、容器収納の上 シート養生	—	微量 m ³ [-100 m ³]				
			仮設集積の合計		—	75,100 m ³ [-3,200 m ³]				

- ※1 瓦礫類、使用済保護衣等、伐採木、仮設集積物、震災後に発生した放射性固体廃棄物（焼却灰等）は2023年2月28日現在、水処理二次廃棄物は2023年3月2日現在の保管量及び保管容量である。尚、瓦礫類、使用済保護衣等及び伐採木の下段に（ ）で記載している保管容量は、実施計画（2023年2月21日認可）に記載している保管容量である。
- ※2 屋外集積及びシート養生の瓦礫類、使用済保護衣等、並びに屋外集積の伐採木は、3ヶ月に1回。
- ※3 6月～9月は、1週間に3回。
- ※4 2022年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：1,167本、チャンネルボックス：9,818本、ヒューエルサポート：3本、中性子検出器：1,137本、その他（シュラウド切断片等）：193m³。
- ※5 2022年3月末時点の保管量。内訳は、イオン交換樹脂：2,398m³、造粒固化体：1,148m³。
- ※6 2022年3月末時点の保管量。内訳は、制御棒：281本、チャンネルボックス：10,539本、ポイズンカーテン：173本、ヒューエルサポート：54本、中性子検出器：375本。
- ※7 廃棄物の処理・処分に必要となる、廃棄物の性状把握のため、汚染水、瓦礫類、伐採木及び立木について、放射能濃度分析を実施しており、今後も継続する。分析した試料の中には、C-14（半減期：約5.7×10³年）、Ni-63（半減期：約1.0×10²年）、Se-79（半減期：約1.1×10⁶年）、Tc-99（半減期：約2.1×10⁵年）、I-129（半減期：約1.6×10⁷年）等が検出されているものがある。
- ※8 1～4号機廃棄物処理建屋等の水没や高線量の理由によりアクセスできないタンクについてはこの限りではない。
- ※9 アンダーラインの実施内容は、実施計画（2023年2月21日認可）に未記載。
- ※10 仮設集積しているのは、瓦礫類、伐採木、水処理二次廃棄物等であり、QJ-54・1F-R5-002 瓦礫等管理要領に基づき、ロープや柵等の区画を行い、立ち入りを制限する標識を掲示する措置を講じている。
- ※11 []は、当該の報告とその前月との差を示している。
- ※12 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の保管量を微量、50m³未満の増減を微増・微減と示している。

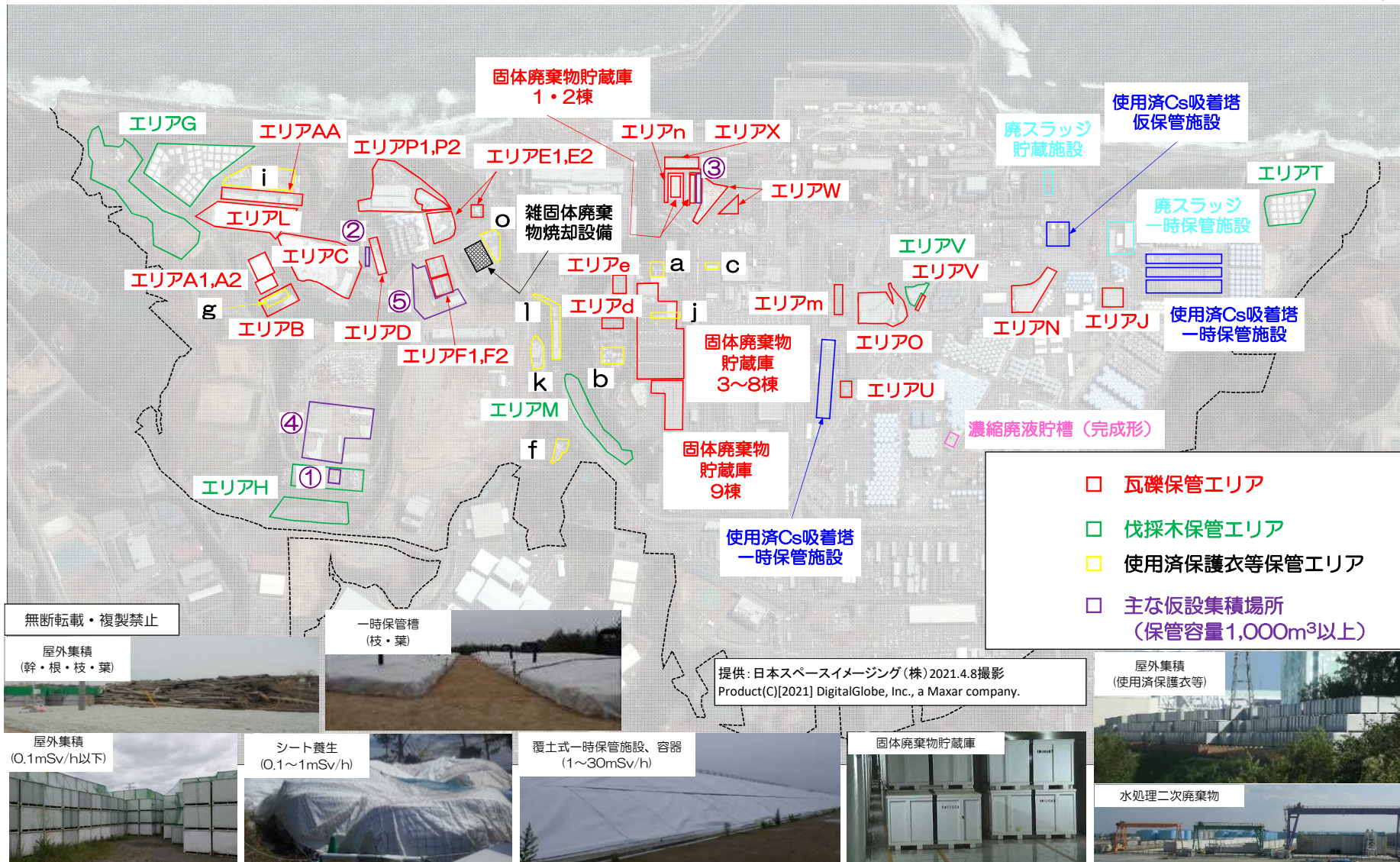
ガレキの保管量の現状^{※1, 2, 3}

保管形態	受入目安表面線量率 (mSv/h)	エリア 名称	保管容量	保管量	前回比	保管容量合計	保管量合計	2022年度末 想定保管量 ^{※4}
屋外集積 (~0.1mSv/h)	≦0.001	AA	36,400 m ³	23,200 m ³	+200 m ³	266,300 m ³	234,600 m ³	271,900 m ³
	≦0.005	A2	9,500 m ³	- m ³ ^{※5}	- m ³ ^{※5}			
		J	6,300 m ³	6,200 m ³	0 m ³			
	≦0.01	A1	4,300 m ³	2,200 m ³	0 m ³			
		B	5,300 m ³	5,300 m ³	0 m ³			
		C	31,000 m ³	31,000 m ³	0 m ³			
	≦0.025	C	35,000 m ³	34,400 m ³	+100 m ³			
	≦0.028	U	800 m ³	700 m ³	0 m ³			
	≦0.1	C	1,000 m ³	1,000 m ³	0 m ³			
		F2	6,400 m ³	5,000 m ³	+200 m ³			
		N	9,700 m ³	9,600 m ³	0 m ³			
		O	44,100 m ³	44,000 m ³	0 m ³			
		P1	62,700 m ³	58,500 m ³	-200 m ³			
		V	6,000 m ³	6,000 m ³	0 m ³			
d		1,200 m ³	1,200 m ³	0 m ³				
e	6,700 m ³	6,200 m ³	0 m ³					
シート養生 (~1mSv/h)	≦0.3	D	2,700 m ³	2,600 m ³	0 m ³	50,700 m ³	46,300 m ³	77,100 m ³
	≦1	E1	15,400 m ³	13,900 m ³	0 m ³			
		P2	6,700 m ³	6,100 m ³	0 m ³			
		W1	11,600 m ³	9,800 m ³	-1,700 m ³			
		W2	0 m ³	0 m ³	0 m ³			
		X	7,900 m ³	7,900 m ³	0 m ³			
		m	3,100 m ³	3,000 m ³	0 m ³			
		n	3,300 m ³	2,900 m ³	+200 m ³			
覆土式一時保管施設、容器収納 (1mSv/h~30mSv/h)	≦10	F1	700 m ³	600 m ³	0 m ³	17,900 m ³	17,000 m ³	33,600 m ³
	≦30	E2	1,200 m ³	400 m ³	0 m ³			
		L	16,000 m ³	16,000 m ³	0 m ³			

仮設集積の管理状況^{※1, 2}

分類	場所	保管容量	保管量	前回比
仮設集積 ^{※6}	①	2,200 m ³	2,200 m ³	0 m ³
	②	2,000 m ³	1,600 m ³	-100 m ³
	③	5,400 m ³	3,500 m ³	+2,000 m ³
	④	44,800 m ³	44,500 m ³	+1,600 m ³
	⑤	18,800 m ³	11,200 m ³	-400 m ³

- ※1 瓦礫類、仮設集積物は2023年2月28日現在の保管量及び保管容量である。保管容量は運用上の上限を示している。
 ※2 一部の値について端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。また、50m³未満の増減を微増・微減と示している。
 ※3 各受入目安線量率において、固体廃棄物貯蔵庫の保管量は除いて記載。
 ※4 瓦礫類の想定保管量は、実施計画（2023年2月21日認可）の予測値を示している。
 ※5 エリアA2は低線量エリアとした（2020年1月6日認可）が、移行期間のため「-」と記載。
 ※6 保管容量が1,000m³以上の仮設集積場所について記載。



使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）の Ss900耐震評価について

2023年4月7日

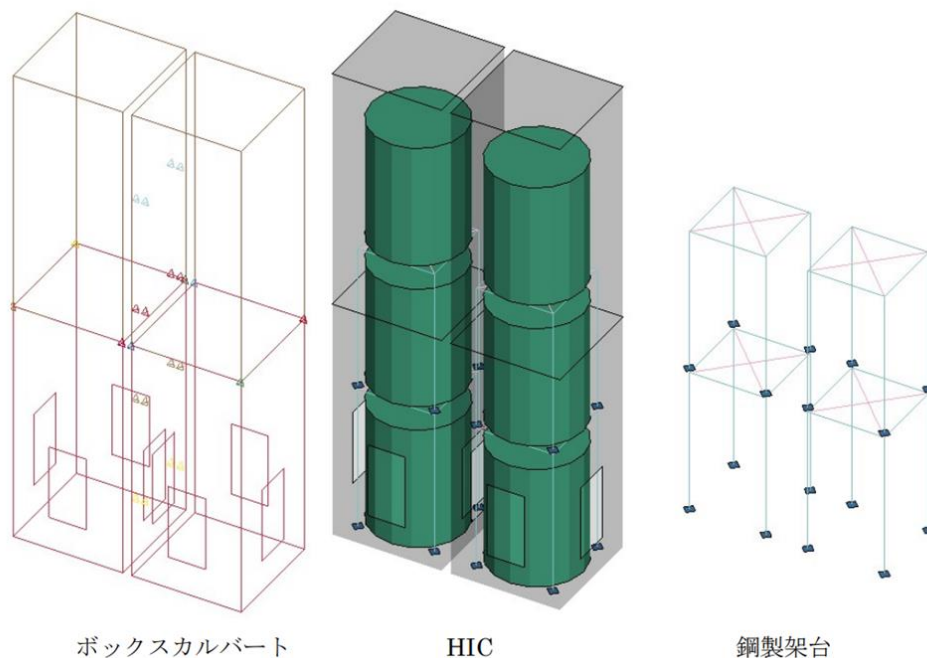
TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

- 使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）は耐震Bクラスにて認可を受けている。現行の設計にて耐震Sクラス要求を満たすか確認するため、FEM解析プログラムLS-DYNAにてボックスカルバート等をモデル化してSs900波を入力し、以下の確認を行う。
 - ①ボックスカルバート(B C)の転倒の有無
 - ②B Cの滑動量
 - ③B C連結ボルトの引張応力評価
 - ④基礎の支持力評価

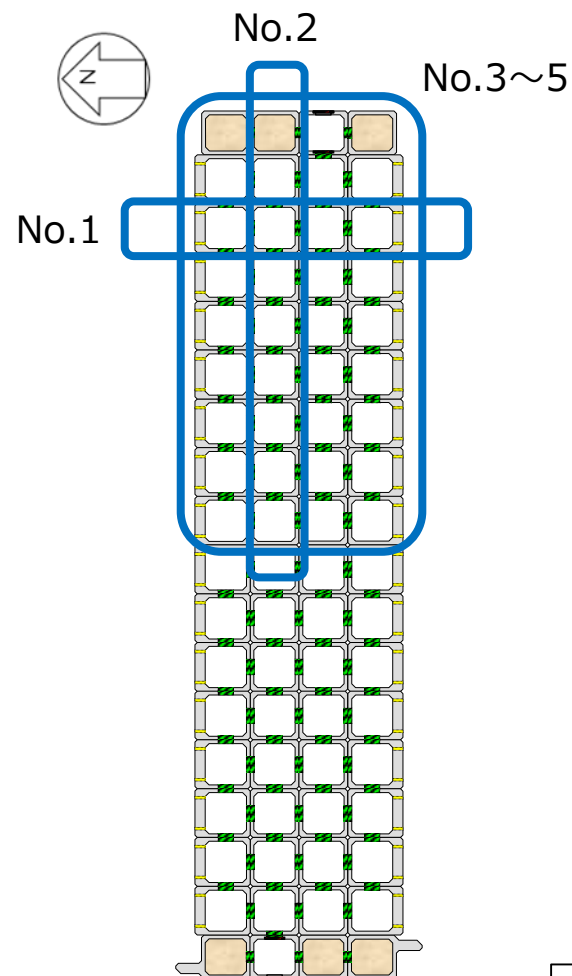
- 評価にあたってはBC、HIC、鋼製架台、基礎をモデル化する。これらは接触条件とするが、BC同士の連結ボルト部は拘束条件とする。
- HICにはスラリー及び使用済吸着材を保管しており、スラリーは液体状であるが吸着材は固体である。このためBC群（4列×9列）の固有値解析を行い、固有周期とHIC内容液のスロッシング周期が異なるか確認を行う。なお、固有値解析の際は接触条件の箇所も拘束条件として評価を行う。
- 固有周期が異なる場合にはHIC内容物は固体として扱い、同程度である場合にはHIC内容物をばね-質点系でモデル化しスロッシングを模擬する。なお、第三施設内のスラリー入りHIC、吸着材入りHICの保管方法に規則性は無いため、ばね定数の調整方法については別途提示する。

〈モデル化のイメージ〉



- 評価モデルに対してSs900波を入力し、転倒有無等の確認を行う。
- 評価は以下の通り段階的に実施する。ただし評価の進捗等により省略する場合がある。

ケース	モデル規模	加振方向
No.1	4×1	NS+UD
No.2	1×9	EW+UD
No.3	4×9	EW+UD
No.4	4×9	NS+UD
No.5	4×9	EW+NS+UD



再利用タンク対象変更について

2023年4月7日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

■ 溶接型タンクの再利用について

- ALPS処理水等貯留タンク容量確保（134.3万m³）の観点からSr処理水等貯留タンクからALPS処理水等貯留タンクへの再利用を実施中。（93基の再利用を計画。）（G4北・G5除く）

■ 告示濃度比総和を低く保つための対策方法

- 再利用するタンクについては、残留する放射性物質の影響を低減させる方法を検討。
- 残水処理後のタンク内部状況ならびに貯留履歴より、再利用タンク群を3つの分類に大別し、各々について、対策及び検討を実施。

済 分類①：「タンク内スラッジ除去＋連結管・弁交換」後にALPS処理水を受入れ




済 分類②：「タンク内スラッジ除去＋再塗装＋連結管・弁交換」後にALPS処理水を受入れ

実施中：分類③：二次処理が必要な「処理途上水」を分類③タンクへ移送・受入れ
（移送元タンクにALPS処理水を受入れ）

■ 今回の報告事項

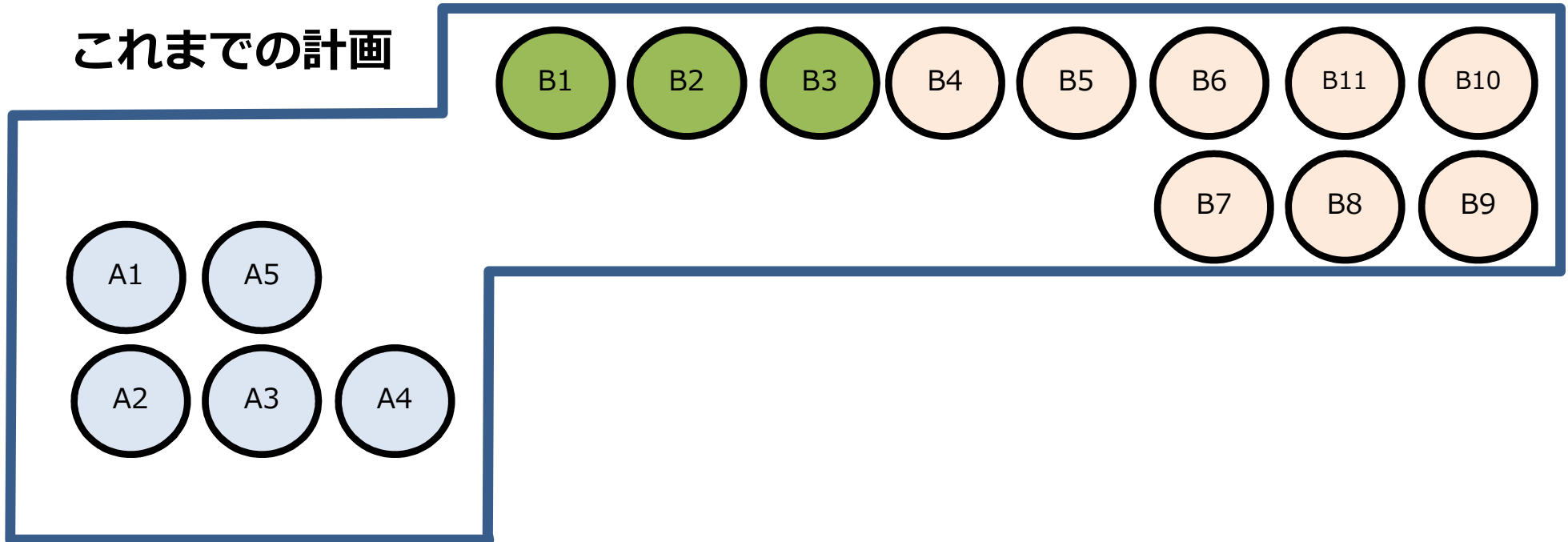
- 全93基の再利用計画に対して、現在90基まで再利用を終えている。
- 残りの3基（H8-B1,2,3）は、分類③に該当し、上記対策を実施する予定であったが、底部にスラッジの堆積を確認したため、再利用方法について検討しており、この度、再利用方法が取り纏まったことから報告するもの。
- スラッジの回収には、長時間要すことが見込まれることから、再利用タンクの変更を実施し、ALPS処理水等の貯留に万全を期したい。

2. スラッジ堆積状況

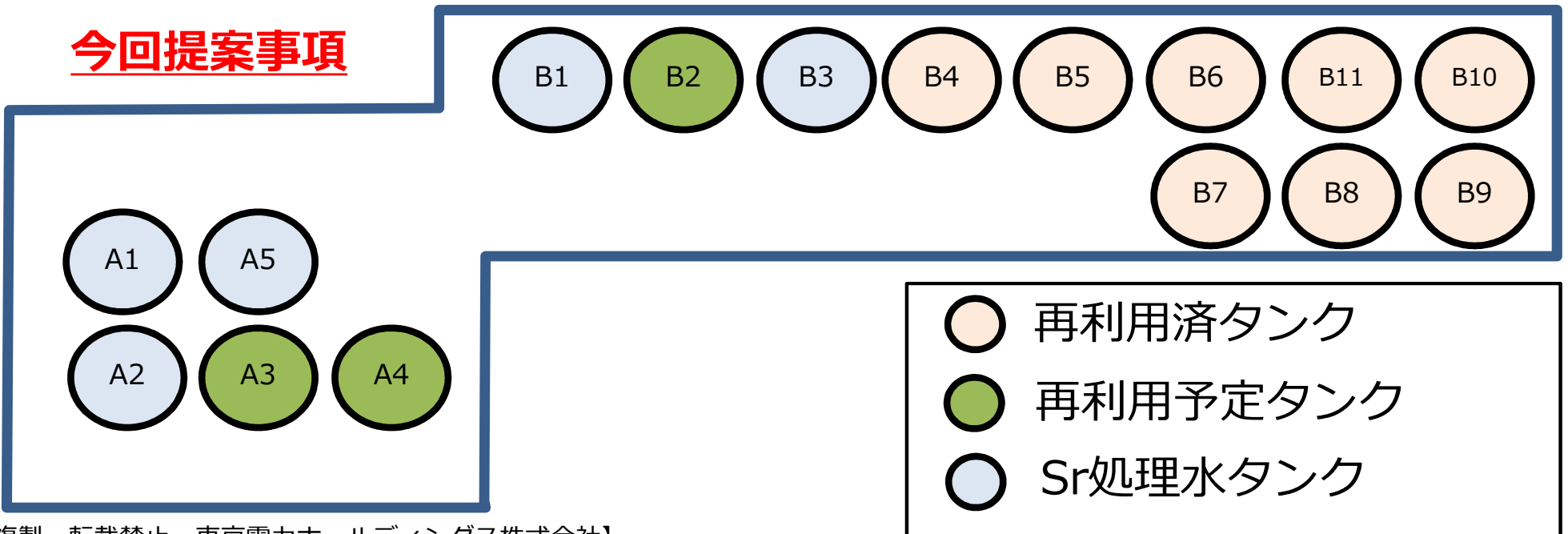
H8-B1	H8-B2	H8-B3
		
【スラッジ堆積量】 タンク底部より16cm	【スラッジ堆積量】 タンク底部より2cm	【スラッジ堆積量】 タンク底部より20cm
【タンク内線量】 γ : 0.20 mSv/h $\gamma+\beta$: 1.9 mSv/h α : 検出なし	【タンク内線量】 γ : 0.13 mSv/h $\gamma+\beta$: 1.5 mSv/h α : 検出なし	【タンク内線量】 γ : 0.70 mSv/h $\gamma+\beta$: 1.4 mSv/h α : 検出なし
【スラッジ堆積原因】 ・当該タンクは、他タンク解体の際に発生する底部残水等を受入れており、その際のスラッジが蓄積したものと考えられる。		
【スラッジ回収について】 ・今後、回収方法・期間について検討を進めていく。		

3. タンク構成

これまでの計画



今回提案事項



【参考】再利用タンクについて（G4北・G5除く）

【再利用前】

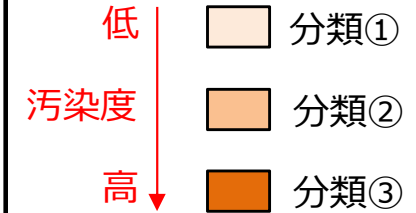
貯留水	用途・基数		貯蔵容量
	用途	基数	
ALPS 処理水等	ALPS処理水タンク	920基	約123.4万m ³
	ALPSサンプルタンク	10基 (うち4基がフロッジ型)	約1.2万m ³
	計	930基	約124.6万m ³
Sr処理水	貯留タンク	117基	約12.2万m ³
合計		1,047基	約136.8万m ³

【再利用後】

貯留水	用途・基数		貯蔵容量
	用途	基数	
ALPS 処理水等	ALPS処理水タンク	920基	約123.4万m ³
	ALPSサンプルタンク	10基 (うち4基がフロッジ型)	約1.2万m ³
	再利用タンク	93基	約9.7万m ³
	計	1,023基	約134.3万m ³
Sr処理水	貯留タンク	24基	約2.5万m ³
合計		1,047基	約136.8万m ³

【参考】再利用タンク一覧

- 分類①：「タンク内スラッジ除去+連結管・弁交換」後「ALPS処理水」を受入れ
- 分類②：「タンク内スラッジ除去+再塗装+連結管・弁交換」後「ALPS処理水」を受入れ
- 分類③：未除染のまま「処理途上水」を受入れ

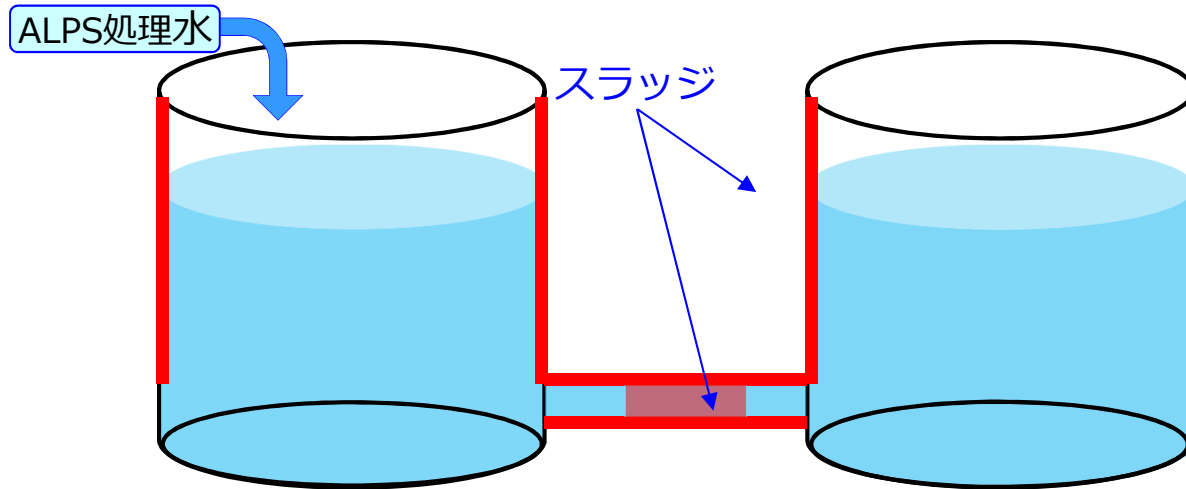


受入れ状態	再利用タンク群	タンク容量	タンク基数	対策状況	告示比総和 (主要7核種)
受入れ済 26,000m ³	G3-H群	6,400m ³	6基	未対策	113.17
	K2-B群	6,200m ³	6基		2.31
	K2-C群	6,200m ³	6基		17.41
	K2-D群	7,200m ³	7基		17.85
受入れ済 18,500m ³	K1-C群	6,800m ³	6基	対策済	0.13
	K1-D群	4,500m ³	4基		0.17
	K2-A群	7,200m ³	7基		1.37
受入れ済 24,400m ³	G3-G群	15,300m ³	15基	対策済	2.63
	G3-E群	9,100m ³	9基	対策済	1.80
受入れ済 8,100m ³	G3-F群	8,100m ³	8基	対策済	1.09
受入れ中 20,400m ³	H8-B群	11,800m ³	11基	—※1	—
	J1-B群	8,600m ³	8基	—※2	464.50
移送元タンク	J1-E群	8,600m ³	8基	タンク底部清掃	0.21

※1：二次処理が必要な「処理途上水」を受入れ中。

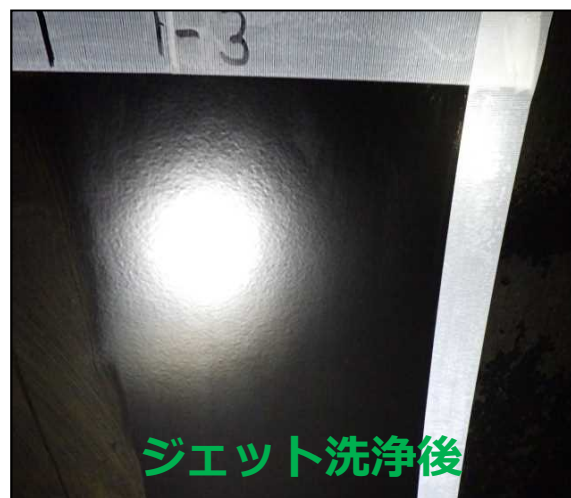
※2：二次処理が必要な「処理途上水」を受入れ済。

【以前の再利用前のタンクの状況】



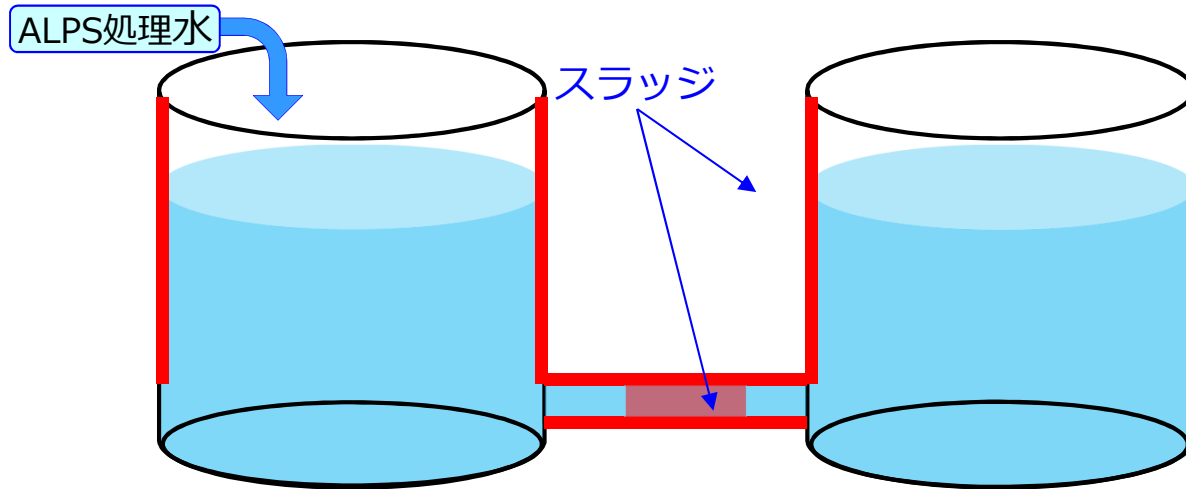
汚染低減未実施部位： —
汚染低減作業：
底板および底板から約2m
程度の範囲の側板に対し、
付着した放射性物質を含む
スラッジ除去作業を実施

【追加の汚染低減対策実施後の状況】



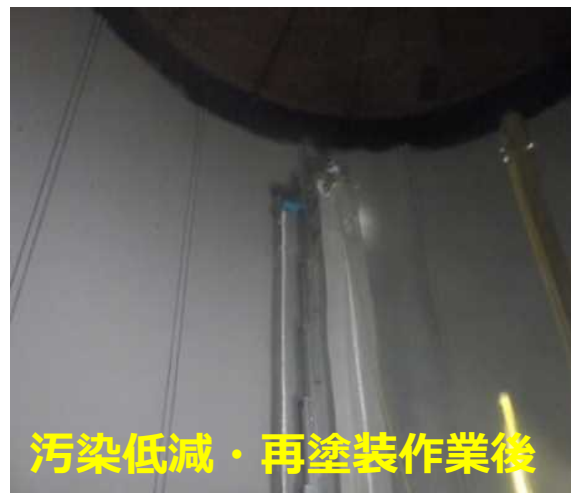
【連結管・弁の交換】
【タンク内面ジェット洗浄】
タンク内全面に対し、高圧洗
浄機にて、付着した放射性物質
を含むスラッジ除去作業を実施

【以前の再利用前のタンクの状況】



汚染低減未実施部位： —
汚染低減作業：
底板および底板から約2m
程度の範囲の側板に対し、
付着した放射性物質を含む
スラッジ除去作業を実施

【追加の汚染低減対策実施後の状況】



【連結管・弁の交換】
【タンク内面除染・再塗装】
タンク内全面に対し、アイス
ブラスト等によるスラッジ除去
を実施
その後、再塗装を実施

- **STEP 1** : 告示濃度比総和1以上の水を貯留する「移送元タンク」から分類③タンク群へ水移送⇒分類③タンク群の告示濃度比総和は100超になると想定
- **STEP 2** : 空になった「移送元タンク」にALPS処理水（ALPS出口での主要7核種濃度0.05程度）を受入れ ⇒移送元タンク群の告示濃度比総和は1未満になると想定

